

らいさま

< 特集 >
学校とコミュニティの再編

栃木県下野市は、雷とともに夕立が多い地域です。雷は昔から「雷（らい）さま」と呼ばれ、豊かな作物を育てる恵みの雨をもたらす存在としてあがめられてきました。雨降って地固まると言われるように、この情報紙が、豊かな地域づくりにつながるように「らいさま」と名付けました。

★下野市自治基本条例とは…

私たち市民にとって、よりよいまちづくりを進めるための基本的な考え方、ルールを定めた自治基本条例（平成26年4月制定）は、特別な規制を設けるものではなく、日々さまざまな活動を行っていく中で、よりよい下野市のまちづくりに役立っていかうとするものです。

P.2 たんぼぼ館を中心としたコミュニティの可能性は∞

P.3 吉田西小学校区と二つのコミュニティ

P.4 スポーツを通じた地域コミュニティ・行事を通じた地域コミュニティ

P.5 ローカルミームを探して

P.6 外の目中的目・らいさまNEWS

令和4年 2月
VOL.14

たんぽぽ館と地域コミュニティの可能性は∞ ムゲンダイ

第13号で特集したローカルメディアワークショップでは、廃校活用などについて参加者の関心が高かったため、今回は、子どもたちを中心としたコミュニティに着目しました。学校を核とした地域コミュニティについて、学校の再編によって2019年(平成31年)に閉校を迎えた国分寺西小学校区と、2022年(令和4年)に閉校を控える吉田西小学校区の方にお話を伺いました。



こまる

☎

下毛野朝臣古麻呂
(しもつけのあそんこまる)
(大宝律令の選定に携わった
下野市ゆかりの人物)



下野市は中学校区ごとに「目指す子どもの姿」を設定し、小学校と中学校の先生が授業の進め方などを一緒に考える小中一貫教育を推進していますが、中学校区によってその形態が違います。例えば、国分寺中学校区は「施設隣接・分離型」、南河内中学校区では「施設一体型の義務教育学校※」、南河内第二中学校区と石橋中学校区は「施設分離型」という施設形態をとっています。

※義務教育学校・・・小学校から中学校までの9年間の過程を一貫して行う学校。2013年(平成25年)11月に策定した『下野市学校適正配置基本計画』の中で、南河内中学校区は『将来的に小中一貫教育の推進を図る学校区』として位置づけられています。

旧国分寺西小のランチルームが姿西部考古台地コミュニティセンター「たんぽぽ館」として活用されています。(第13号らいさまNEWS参照)「たんぽぽ館」の管理者である近藤さんに聞いてみました。



閉校して3年たったけど、国分寺西小学校は地域の人にとってどのような場所だったの？

閉校はやっぱりさみしいですね。国分寺西小の運動会は学校の運動会というより地域の運動会という感じでした。グラウンドの整備などに地域の皆が参加していたのも、そこに地域の子どもたちがいたからという部分も大きかったと思います。運動会にはお囃子が来て、子どもたちもその場でお囃子を体験することができました。久しぶりに会う人たちが、「元気だった?」なんて声を掛け合える皆が集う場所でしたね。現在は樹木も切って景観も変化しましたし、グラウンドも芝が生えているので運動会ができるような状況ではないです。



姿西部考古台地コミュニティ推進協議会
近藤令児会長
(のりこ)

姿西部考古台地コミュニティ推進協議会は、当初は現在の聖武館を拠点として1977年(昭和52年)に設立された市内で最も古くからあるコミュニティ組織であり、たんぽぽ館の指定管理者です。国分寺西小学校区である川西・南国分・国分1~3・紫に箕輪を加えた地区で構成されています。



べにまる



校庭も景色が変わりました。



つながッテルね!
条例14条

(コミュニティ組織の責務及び支援)

第14条 コミュニティ組織(市民活動団体を含む。)は、適正な団体運営を行うとともに、自らの責任のもと、市民活動を推進し、その活動が広く市民に理解されるよう努めるものとする。

旧国分寺西小学校区コミュニティのこれから



↑ぴかぴかの新しい調理室です。



国分寺西小学校は閉校したけど、その形を変えても大切な地域コミュニティは残ってほしいよね。たんぼぼ館が地域の人とのコミュニケーションの場になって、たんぼぼの花みたいな笑顔がいっぱい見られたら良いなあ!

近藤さんは、閉校後の旧国分寺西小コミュニティは姿西部考古台地コミュニティ推進協議会で受け継いでいきたいと言います。

まだ新型コロナが収まってはいませんが、たんぼぼ館はカラオケやお雛子、隣接する体育館での卓球大会やクライミングなど、できることは沢山あるので、地域コミュニティの核としていろいろな交流が生まれる場所にしたいです。住所の市内外問わず使用できるし、新しく整備した調理室もあります。企業の研修会や同窓会など活用方法はいろいろです!



国分寺西小学校は1880年(明治13年)に川中子小学校分校国分学校として創立し、1924年(大正13年)に現在地へ移転、国分寺尋常小学校・国分分教場となった後、1955年(昭和30年)に国分寺町立国分寺西小学校として独立しました。



吉田西小学校区と二つのコミュニティ

2022年(令和4年)3月に伝統ある吉田東小学校・吉田西小学校が閉校し、4月に「南河内小中学校」への統合を控える吉田地区。その中でも、吉田西小学校区には子どもを中心としたコミュニティが複数あると聞き、取材に伺いました。

吉田地区では令和元年に市民活動検討委員会が16の自治会により発足し、現在コミュニティ推進協議会の設立のための合意形成を図っています。

今回取材に伺った方

川井 保明 氏

吉田地区の剣道場「養心館」の師範であり、吉田西小学校PTA会長(2021年(令和3年)現在)。地元で農業を営む。様々なコミュニティに関わりがあり、学童野球のOBでもある。



つながッテルね! 条例11条

(子どもの参画)

第11条 市民、議会及び市は、子どもを下野市の未来を担う地域の宝として育てるとともに、子どもがまちづくりに参画する機会を積極的につくり、その意見を尊重するものとする。

スポーツを通じた地域コミュニティ

発見!

学童野球

幼いころに野球を教わった少年が大人になって、今度は自分が野球を教える立場になり…。

吉田西小学校区で世代を超えて継承されているのが、学童野球。その功績は素晴らしく、過去には関東大会で3位、全国大会で準優勝の成績を収めたことも。吉田西小学校の閉校後も存続させたいが、練習場所をどうするかなど、課題を抱えているところです。(2021年(令和3年)12月現在)

吉田西小学校の壁に飾られた輝かしい成績➔



↑吉田西小学校敷地内に広がる「蔵王の森」。卒業生の植えた木や畑、ビオトープなどが広がる森は、多様な生態系が見られます。

行事を通じた地域コミュニティ



2018年(平成30年)どんど焼きの様子

どんど焼き

どんど焼きは今回取材した川井さんの圃場ほじょう(※)で、吉田西小学校区の育成会が主体となって行われています。地元の消防団や工務店、地域の方の協力のもと、近所の人たちもお餅を焼いたり、お茶を飲んだりして楽しめます。

地域の子どもたちにとって良い経験となるのはもちろんのこと、先生方や年配の方などたくさんの方が集まり、地域の人が顔を合わせる大切な行事です。残念ながら、この2年はコロナ禍で実施できていません。

※農作物を栽培するための場所。同じ場所で、小学校の農業体験も行われています。

地域の人が子育てに関わっているんだね!



地域の行事はどうなる?

地域の人に親しまれてきたどんど焼き。どんど焼きは学校単位の育成会が主催していましたが、吉田西小学校の廃校により、これから先同じように続けられるのかはわかりません。子どもたちにとって貴重な経験となるこれらの伝統は、地域の人たちの手によって形を変えて続いていく…のでしょうか。



つながッテルね!
条例14条2

(コミュニティ組織の責務及び支援)

第14条の2 コミュニティ組織は、まちづくりの主体としての役割を認識し、協働のまちづくりへの理解及び協力に努めるものとする。

ローカルミーム*を探して

ローカルミーム(文化的遺伝子)とは、人が住む場所に受け継がれてきた、その地域独自の風習や方言、文化のことです。

前号で特集した影山裕樹さんのワークショップでも話題となったローカルミームを、取材先の地域で探してみました。

ローカルミームについて、詳しくは前号(13号)のらいさま p.5をご覧ください。

*LOCAL MEME®は、合同会社千十一編集室の登録商標です。



カツクレ(鯉供礼)

国分寺西小区

国分寺地域の一部で行われる伝統的な祭礼。薬師堂にカツオをお供えし、住職による祈祷が行われます。言い伝えによると、荷物を運ぶ馬が長旅の途中で倒れてしまい、助命を願って運んでいた品物(カツオや柿など)をお供えしたところ馬が立ち直ったことから、この風習が始まったのだとか。
左写真：国分寺町史民俗編より



相撲

地域の行事として、神社にて相撲が行われていました。茅の輪くぐりなどもしていましたが、今はコロナ禍で中断しています。



吉田西小区

東根供養塔

小金井街道沿いの脇道にひっそりとたたずむ塔。これは元久元年(1204)に佐伯伴行という人物が妻とともに大檀那(おおだんな)となり亡き父と母の菩提を弔うために造立したとされています。

県内に現存する紀年銘のある宝塔としては最古のもので、関東地方でも代表すべき宝塔のひとつです。



吉田東小区

養心館

今回取材させていただいた川井さんが師範を務める剣道場。市内の子どもたちだけでなく、小山市や上三川町など市外の子どものたちも通っています。

「心正しければ剣また正し」の教えのもと、青少年の健全育成を目指しており、子供たちは心身ともに育てられています。



初代 岩瀬隼太郎館長
(旧吉田村 村長)の像



つながッテルね!
条例6条

(情報提供)

第6条 議会及び市は、その保有する情報について市民との共有財産であるとの認識に立ち、積極的に、かつ、分かりやすく市民への情報提供に努めるものとする。



地域における新しい未来づくりを考える

ArtKitchen 代表 上野 志帆 氏

創造力と感性でこどもの未来を
デザインするArtKitchenの
上野さんに伺いました



吉田地区に引っ越してきて早9年目になろうとしています。東京の下町で育ってきた私にとって移住当初、環境の違いにホームシックになってしまいました。現在ではすっかり慣れて都会と地方の良いところを両方感じることが出来ます。こどもを通じて地域独特の習わしを知ることができたのは特に良かったことの一つです。十五夜と十三夜の夕方、今年収穫した稲の藁を使って各家庭で棒状のものを作り、こどもたちが歌を歌いながら藁を地面に叩きつけ、地域の家々を一軒一軒周りながらお小遣いをいただく藁でっぼう。日本版のハロウィンのようなこの伝統は、収穫や自然への感謝を形にした祖先の人々の思いが脈々と受け継がれてきた風習であり、地域独特の文化を体験できたことは子供にとって貴重な財産になりました。

一方、現在、小中一貫の義務教育学校として吉田東・吉田西・薬師寺の3校が下野市南河内小中学校として統合され、各校が閉校となります。住民の拠り所として存在してきた小学校がなくなることで、そして少子高齢化の進む吉田地区地域に与える影響を考えると、何とかしなければならないという思いは強くなるばかりです。今後小学校をどのように活用していくのかを吉田地区市民活動検討委員の一員として吉田地区の皆さんのお声やアンケートでお聞きし、みんなで検討しています。この地域の課題を発見し、1つ1つ問題を解決するデザイン思考と0から創造するクリエイティブな思考を用いることによって新しい吉田地区が形創られ、その場所で色々な方が繋がり、新しい何かが生まれる豊かな場所になることが出来るのではないかと考えています。

私自身アートに携わる日々の中で、アートやデザインは特別なものではなく、もっと生活に身近で様々なところに存在し、人を豊かに幸せにするものだと感じ、地域においてのデザインやアートの可能性を考えています。

らいさまNEWS

らいさまがアジアブックマーケットに出展されました

2021年(令和3年)12月に大阪市で開催されたキタカガヤフリー2021オースタム&アジアブックマーケットに参加した千十一編集室 / EDIT LOCAL LABORATORY (第13号に登場した影山裕樹さんの団体です) のブースでらいさまを出展していただきました。アジアブックマーケットは国内のみならず海外も含めた様々な出版物が並びイベントであり、来場した多くの人にらいさまというローカルメディアをPRすることができました。



写真) EDIT LOCAL LABORATORY



編集後記



少子化にともない全国的に廃校が増えています。校舎は、そのまま残されているものがほとんどで、その有効活用が求められています。今回は廃校後3年目の国分寺西小区と、今年度廃校予定の吉田西小区の関係者に取材しました。小学校は、地域の方にとっての心のより所だったようで、廃校のさびしさはひとしおのようです。国分寺西小区では2020年に「たんぼぼ館」を開館させ、利用者が集まりやすい工夫を色々としています。吉田西小区では、コロナ禍以前までは川井さんの所有地で毎年どんど焼きを行い、地域のつながりを絶やさないようにしていました。このように地域コミュニティは地域の人たちの努力で成り立っています。「共同体意識」を高めることで、土地に愛着を持ち、安心安全な場が作られていくのだと感じました。(影山恵子)

【表紙】吉田西小地区どんど焼きのやぐら

木の枝などでやぐらを組み正月飾りやお守りなどを焼いてもらう行事です。